令和元年度 庁議 議事要旨

会議名称	第4回 調整会議
日時	令和元年 7月24日(水) 午前・ 午後 1時30分～3時00分
場所	町長室
出席者	副町長、教育長、統括監ほか課長職(欠席:議会事務局長、農林課長)、総務課主幹

内 容	【付議】 1. 宿泊税の用途について(観光課) (1) 付議事案の概要 「個別施策」の方針のもと、各課から提案された個々の事業が宿泊税充当可能かどうかの判断(計27事業について。別紙のとおり)。 (2) 主な意見・質疑・確認事項等 ・「ビジネス」も含めてすべて宿泊税を徴収する。観光分野が中心になると思うがインフラ部分もある程度充てていかないと(観光目的の宿泊だけではない) ・インフラ整備に使うかは、(より高度な)政策的な判断の部類。基本は観光振興を目的にした、「世界に誇るリゾート」を目指すための施策に使う税。宿泊者からもらうという意味では、ビジネスマンに対する恩恵=観光案内所や飲食店マップ作成など=観光分野はすそ野が広いが、では冬季のひらふエリアの町道の除雪とかも、となると財源を確保するための税ではないので。 ・例えば、通常の道路整備でたまたまひらふ地区だから、というのは充当費目ではないと言える。通常の道路整備に以上に求められているものは該当と言えるのでは。ロードヒーティングも(議論は必要だが)充当可能性はある。 →(ハードの部分については)個別に判断する必要がある。 →インフラ関係については、数点の別途協議ということで進めさせてもらい、ただし26番に関しては、充当可能事業ということで整理する。 →ざっくりと見たら、今年度は額的に目に見えるものに充てるものが少なく、基金に積む数字が大きくなるのかと。 ・今年度いくら入ってくるのがわからない。 →宿泊税充当事業で一番ボリュームのあるものと言えば、ひらふ第1駐車場の整備に係る財源としてか。中期的には。長期となったら新幹線という話が出てくるのでは。第1駐車場をやらないと次の話(新幹線事業)には。ある程度基金にも。

→一定の額が無いとイザというとき大変でもある。ある程度の基金は持っていないといけないというスタンス。

→（住民）説明では星印がついたところが今年度（短期）事業という説明。

・駅周辺の交流空間整備なんかは長期的な話。予定はされているので、ある程度基金に積んでおかないと。

→ここに位置づけている星印の部分を振り替えたとしたら、最終的に基金にいく数字がどういう数字になるかをみてみたいが。

・税の方からどれだけ回ってくるか。

→星印で説明してきたものについては、（今年度の短期的な）宿泊税充当事業で説明してきているから、そこについては財源振替させていただくというのはいり得るのかと。

→例えば2番（宿泊税啓発資材）。

・あとは（ここに出ていないが）、ソフトボール球場、パークゴルフ場とかにも。過去に入湯税を充てていた実績もあるので。

・札幌のモエレ沼や芸術関係の施設なんかの集客施設はある意味観光施設的な捉え方もされている。美術館や風土館にすぐ充当するわけではないが、この先、検討課題として入れた方が良いのでは。

→今日の挙げてもらった事業に対する宿泊税の使途の可否について、先ほど言った個別の整理で良いか？後段出た様々な意見に関しては、今後も庁議で。

（3）結果

別紙のとおり、宿泊税充当可能事業を整理し、政策会議に諮ることとする。

【報告事項】

なし

（了）